

産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会
プラスチック資源循環戦略ワーキンググループ、
中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会 合同会議（第8回）

議事要旨

日時：令和3年1月28日（木曜日）8時30分～10時30分

場所：Web 会議

出席者

委員

産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会プラスチック資源循環戦略ワーキンググループ

細田座長、石川委員、坂田委員、佐藤委員、湊元委員、長谷川委員、柳田委員

中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会

酒井委員長、青野委員、大熊委員、大塚委員、崎田委員、高村委員、宮澤委員、森口委員

主な議題

1. 今後のプラスチック資源循環施策のあり方について
2. その他

委員等からの主な意見

■プラスチック資源循環を促進するための基本的な考え方について

- プラスチックは用いられる用途や状況が非常に多様で、これは政府レベルであらかじめこういうのがいいと一つに決めてもなかなかうまくいかない。したがって、状況が一番よく分かっている関係事業者や自治体が、こういうことがうまくいくのではないかとということをトライアルしてもらうということが非常に大事。
- 業界あるいは製品にとらわれずに、素材という観点から横断的な取組をするということで、今までのリサイクル法とは全く違い、この点を高く評価したい。
- プラスチックという、従来の使用済み製品とは異なって、サプライチェーンを縦方向に追っていけばつながるというものではなく、いろいろなところに横断的に入り込んでおり、これをどうやって発生を回避し、リユース、リサイクルの3Rに持っていくかということが非常に難しいが柔軟な取組にすることが重要。
- プラスチックの衛生性やエッセンシャルユースとしての有用性、あるいは重要性を明記するとともに、資源循環、ごみ問題解決のために3Rや技術開発を進めていくこと、加えてライフスタイルのイノベーションなど、今までにも増して取組を強化していく

必要があるという決意について、軸がぶれることのない意思表示をしてきたのは大変よい。この基本的な考え方の下、政府、自治体、企業、消費者が役目をしっかり果たし、さらに連携してバランスよく全体最適的に効果を上げることが大変重要。

- LCAの観点から、CO₂の削減効果という面で見ても、従来のケミカルリサイクルの中でCO₂削減効果が非常に高いとされていたものは主に石炭代替になるようなものが多かったが、これから2050年ネットゼロに向けてCO₂排出を長期的にゼロに近づけていくということになると、ほかの代替対象もどんどん低炭素化していく、脱炭素化していくということを念頭に置いた上でのベストな方向を見ていかなければいけない。ESG投資の中でも目下の技術や中長期的な周辺状況の変遷なども勘案しながら、何がベストかということを考えていくことが必要。
- グリーン成長戦略において、気候変動、あるいは環境対策を積極的に取ることで、日本の産業構造や社会の変革をもたらす、次の世代の産業構造、経済構造をつくっていくという考え方が非常に明確に示されており、その中でも書かれているように、新しい産業や経済をつくっていく、それをリードする民間企業をしっかりと政府が応援する、そして、その応援というのはチャレンジをする民間企業がチャレンジしやすい、あるいはチャレンジが報われる市場環境、制度を作っていくということが重要。
- 2050年カーボンニュートラルに向けて、プラスチック以外の素材も含めて、リデュース、リユースの推進が極めて重要であり、引き続き実効性ある対策の強化をするべき。
- コロナ禍であっても、廃棄物の処理の優先順位、一番初めは発生回避、そしてリユース、あるいはリユースの準備、それからリサイクル、これをマテリアル、ケミカル、熱回収、そして、適正処理という順番しっかりと守っていくという方向で制度設計を進めていくべき。

■パブリックコメントに対する考え方について

- パブリックコメントに、新たなシステムの下での手続的な簡素化を求めるというような意見があったが、特に手続的に難しいと絵に描いた餅になってしまうため、様々な対応を使って手続的に可能な自主的取組を進めていくべき。
- パブリックコメントを、具体的に施策を実施していくに当たってベストなバランスを見つけていくべく、実施段階を丁寧にしていくなど、今後しっかりと生かしていくべき。

■プラスチック資源循環施策の具体化について

- 廃棄物の処理に関しては、自治体の判断となり、実際に一定以上の地域的広がりを持った試みをやろうとすると複数の自治体にまたがるため、複数の自治体が同じ問題に対して判断が異なることが、実際対策を実施していく中で大きな障害となったり、時間が遅れたりすることになる。こうしたことが起きないようにするため、国が判断するべきであり、国全体でちゃんと説明ができて、透明な判断であるということが迅速に普及・共有できるように工夫するべき。

- 今般の資源循環施策のあり方について、容器包装リサイクル法等の既存法との関係を分かりやすく明快、明瞭なものにすることが国民との関係でも非常に重要。
- 制度化にあたって、今までの法体系といろいろなところで関わってくるが、ぜひ促進型の法体系にして、先進的に取り組む意思のある企業や自治体が積極的に連携をして取り組めるような内容にしていくべき。
- 今後の具体的な制度設計に際しては、事業者や関係機関、特に容リ法とリサイクルに携わる関係者等、連携を密にし、情報共有を十分に図りながら、納得性を高める形で丁寧に進めていくべき。そして、全体のシステムが分かりやすくスムーズに流れるように設計していくべき。
- 新たな制度の開始に当たっては、中小企業にも丁寧に説明、理解してもらうよう、現場に支障、混乱が生じないことを十分に確認した上で運用を始めるなど、拙速に進めるのではなく、十分な通知期間を置くべきであり、関係者間の理解醸成を図りながら、施策効果を十分に予見できる段階でスタートすることが重要。
- グリーン需要創出の方策、あるいは環境社会配慮といったものを踏まえた代替素材の促進といった点については、法令の準備とともに並行して作業を進めていくべき。
- 事業者から排出されるプラスチック資源の回収、リサイクルの取組に関して、引き続き各社が自主的な取組を一層推進できるよう、事業者の意見にも配慮し、実効性のある制度設計をするべき。
- プラスチック製容器包装とその他プラスチック製品の一括回収、リサイクルや選別工程の一体的な運用に関し、コストの低減とリサイクルの質が担保されることを期待。
- 動機づけの点からいうと、良いと思われる試みが広がっていくというような構造が大事であり、E S G投資に対する対話のガイドラインなどは有力なツールとして働くだらうと期待。また、国としてはグリーン購入法をさらに強化して使うというようなことも十分考えられる。
- 企業ごとのバイオプラスチック製造、販売目標を取りまとめたバイオプラスチック導入目標が策定されているが、このような導入目標をリサイクルプラスチックについても、社会全体で積極的に導入し、そしてリサイクルプラスチックの市場が拡大するよう関係事業者の連携を進めるなど、引き続き行政の支援をお願いしたい。
- 環境配慮設計を明確に示して、そうした製品が市場でしっかり評価をされる基盤というのを国が作ることが非常に重要。
- 各市町村内にリサイクラーがあるといった市町村はほとんどなく、中継施設を設置しなければいけないことや、輸送のためにこれを合理化するためには、減量化のための結束という作業も必要。また、回収量も増えるため、中継施設も増設する必要がある、維持管理するための費用もかかることから、国による配慮も必要。
- 燃やすゴミから非常にカロリーの高いプラスチックが分別回収によって減少すると、発電量が下がり、売電量も低下する。分別収集を進めることによって財政的に厳しくなるといったような現象も予想されるため、これらに対する配慮も必要。

- サーキュラー・エコノミーは世界的な潮流であり、日本企業の取組がグローバルに適切に評価されるよう、内外の投資家、機関投資家、金融機関に向けて積極的な発信をするべき。

■消費者等への情報発信等について

- 分野的な施策等も非常に重要であり、消費者の理解と何より協力をどう得るか、企業、自治体の新しい取組のチャレンジをどのように推進していくか、それから、E S G投資についてこれの活用による企業価値の正当な評価による後押しをどのようにしていくかなどをしっかりと実行していくことが重要。
- ビジネススタイルとライフスタイルの変革、そして自治体が全員参加、協力し合うということが大変重要であり、そうした基盤として消費者がどのように行動するか、消費者にきちんとした情報を伝えるということが重要。
- プラスチック製容器包装、製品は、プラスチック資源として分別回収し、適正にリサイクルすることが 2050 年C O 2 実質ゼロの実現やS D G s の推進に寄与する自治体の資源循環分野の施策として不可欠であるというメッセージを明確に示すことが有効。
- 制度設計をする際、とても重要になるのは、情報の受発信をなるべく正確にしていくことであり、情報をどうやってつかんでいくか、情報をどうやって受発信するかなど、分かりやすさは必要ではあるが、それがまた人々の行動を間違えないように、うまく発信していくということが重要。

お問い合わせ先

産業技術環境局 資源循環経済課

電 話：03-3501-4978

F A X：03-3501-9489